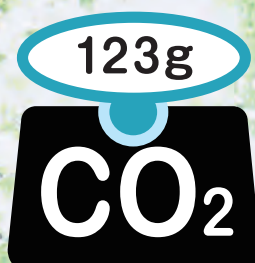


カーボンフットプリント制度 試行事業について



カーボンフットプリントとは

カーボンフットプリントとは、直訳すると「炭素の足跡」です。私達が、購入・消費している全ての商品・サービスが作られてから捨てられるまでの各過程で排出された「温室効果ガスの量」を合算し、それをCO₂排出量に換算して分かりやすく表示することをいいます。カーボンフットプリントは、CO₂排出量の「見える化」の一つの手段として、期待が高まっています。

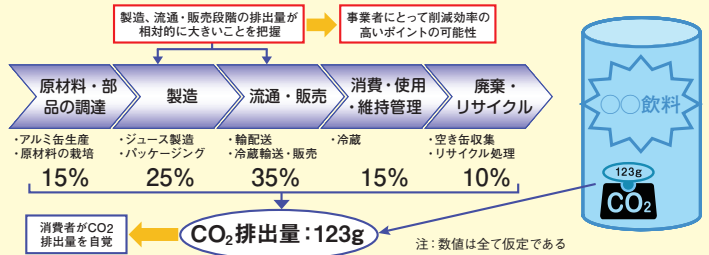
経済産業省

カーボンフットプリント制度とは

カーボンフットプリント制度とは、「製品（商品又はサービス）の原材料調達から廃棄・リサイクルに至るまでのライフサイクル全体を通して排出される温室効果ガスの排出量をCO₂に換算して、当該製品に表示する仕組み」のことをいいます。

（「カーボンフットプリント制度の在り方（指針）」より）

▶ 缶飲料の例



■ 背景

平成 20 年度（2008 年度）より、我が国の温室効果ガスの総排出量を 1990 年比で 6 %削減を求める京都議定書の目標達成第一約束期間が開始されました。

これを受け、地球温暖化対策の一環として、消費者の行動を促すために、様々な製品やサービスの生産・使用段階等におけるCO₂排出量の「見える化」を推進することが提起され、平成20年7月に閣議決定された「低炭素社会づくり行動計画」の中で、カーボンフットプリント制度等の「見える化」を政府として取り組むことになりました。

■ 目的

この制度によって、自らが排出する炭素に責任を持つことが求められている産業界と国民一人一人が、低炭素社会の実現に向けて、賢く、そして責任ある行動をとる必要があります。そのためには、CO₂ 排出量の「見える化」によって、事業者はサプライチェーンを構成する企業間で協力して更なるCO₂ 排出量削減に努め、消費者は提供された情報を有効に活用して自らの消費生活を低炭素なものに変革していくことが求められます。

◆ 事業者にとっての意義 ◆

- ・ CO₂ 排出量の算定・表示を通じて、自らの地球温暖化防止対策を消費者等にアピールすることができます。
- ・ サプライチェーン全体の CO₂ 排出量の「見える化」により、温室効果ガス削減効率の高いポイントを把握し、効果的な削減対策を促進することにより、低炭素型の事業構造への変革を実現でき、低炭素社会における自社製品の競争力につながります。
- ・ 我が国の事例をもとに、ISO（国際標準化機構）での国際標準化作業に積極的に関与・貢献し、我が国の取組を国際規格に反映させるための議論をリードできます。

◆ 政策上の意義 ◆

- ① 消費者・市場による選択を通じ、企業の事業活動の低炭素化・効率向上に向けた取組強化が実現できます。これらを通じ、日本企業の強みを更に伸ばし、競争力強化につなげることができます。
- ② 使用・廃棄段階の情報提供を通じて、消費者による削減努力を促進できます。
- ③ これら事業者・消費者の取組を通じ、「低炭素社会」の実現を目指すことができます。
- ④ 国内の取組を通じて確認できる各企業の「強み」や実態を踏まえ、我が国の産業にとって有利な国際標準を実現し、中長期的な国際展開の基盤を固めることができます。

◆ 消費者にとっての意義 ◆

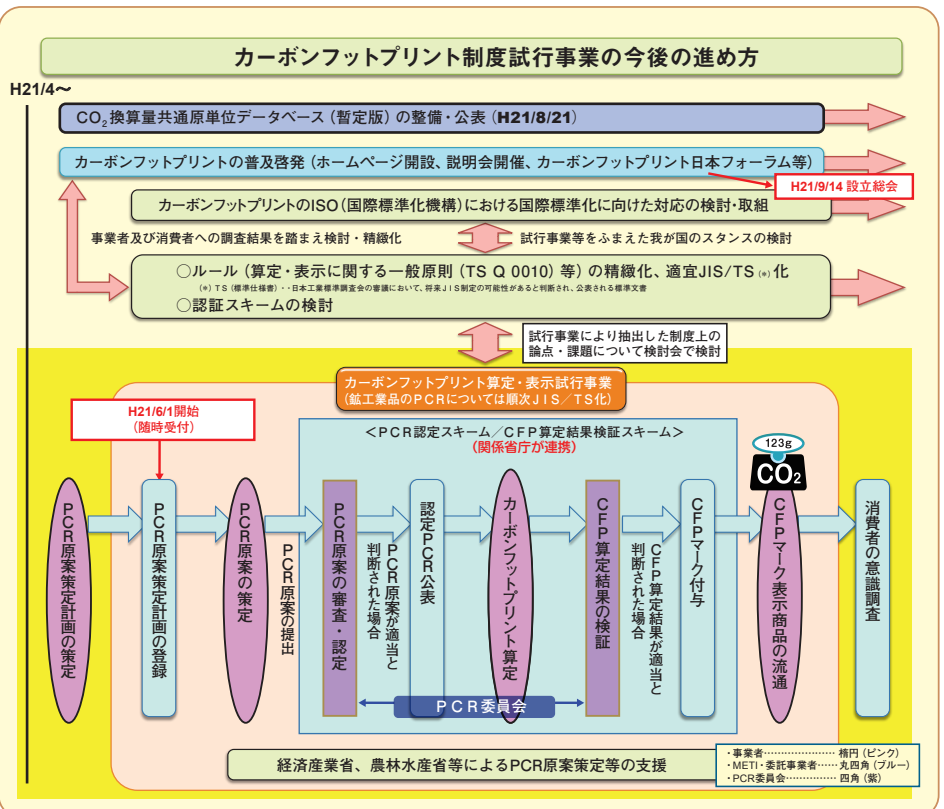
- ・ 「使用段階」や「廃棄・リサイクル段階」の排出量を自覚し、排出量のより低い商品の購買・使用方法等の選択を通じて、低炭素な消費行動を促すことができます。

カーボンフットプリント制度試行事業の全体像

本年度の制度試行事業では、カーボンフットプリント制度の在り方を示した「指針」となる「カーボンフットプリント制度の在り方（指針）」と商品又はサービスごとに排出量の算定ルールを定めるための「カーボンフットプリント制度商品種別算定基準（PCR）策定基準」に基づき、商品又はサービスの市場導入実験や制度の更なる精緻化等を行い、商品又はサービスのCO₂ 排出量の「見える化」によって、消費者が企業の温暖化防止対策を評価する仕組みを整備します。

また、制度試行事業を通じ浮きぼりになった課題を踏まえ、ルールの精緻化、ISO（国際標準化機構）による国際標準化の議論に反映させていくこととします。これにより、企業の温暖化対策の取組を促進し、低炭素型の産業構造への変革の実現と、消費者自身の低炭素行動を促すことを目指します。

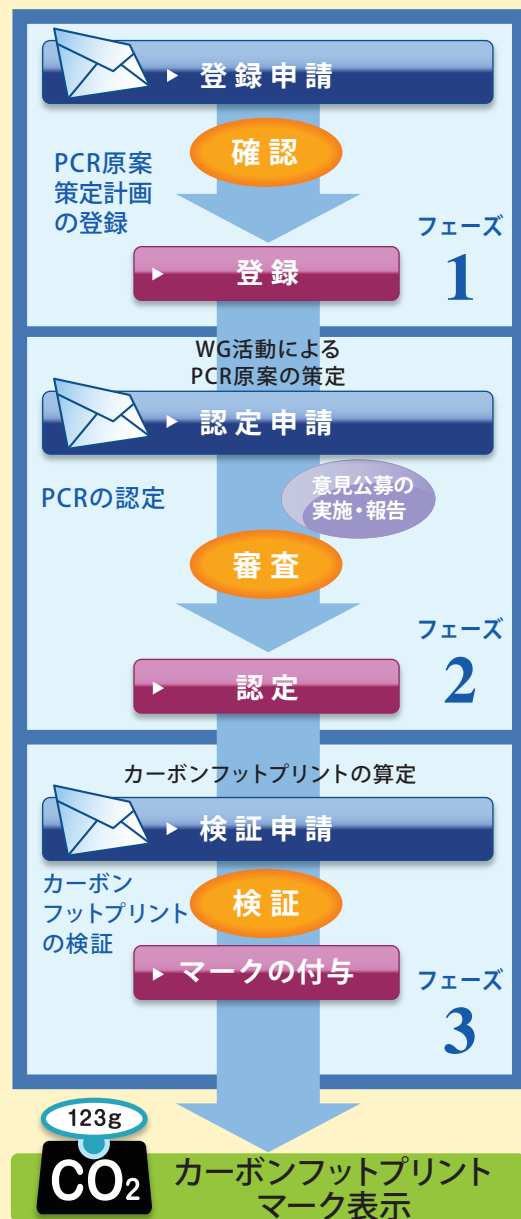
※ PCR（Product Category Rule）：「商品種別算定基準」を意味します。「商品種別算定基準」とは、製品（商品又はサービス）におけるカーボンフットプリントの算定・表示にあたり、消費者の混乱を防ぎ、企業や業界独自の算定ルールの乱立を避けるため、製品ごとに設けられた算定方法の基準のことです。



カーボンフットプリントマーク付与までの手続きの流れ

■ 概要

カーボンフットプリントマークの表示が付与されるまでには、以下の 3 つのフェーズ（「フェーズ 1：PCR 原案策定計画の登録」、「フェーズ 2：PCR の認定」、「フェーズ 3：カーボンフットプリントの検証」）を経て、カーボンフットプリントマークの使用が許諾されます。



フェーズ 1：PCR 原案策定計画の登録

PCRの策定、認定を希望する事業者等は、製品（商品又はサービス）ごとのカーボンフットプリントの算定・表示に関するルールとなるPCRを策定する計画（「PCR原案策定計画」）をカーボンフットプリント制度試行事業事務局（社団法人産業環境管理協会）に提出し、「PCR原案策定計画」の登録をしていただきます。策定計画が認められますと、カーボンフットプリント制度試行事業事務局より申請代表者に文書で通知するとともに、ホームページ（<http://www.cfp-japan.jp/>）で公表されます。

フェーズ 2：PCR の認定

登録された「PCR原案策定計画」に基づき策定した「PCR原案」及び「PCR認定申請書」をカーボンフットプリント制度試行事業事務局に提出していただきます。「PCR原案」は意見公募を経た後、専門家によるPCRレビューを経て、有識者による「PCR委員会」での審査にかけられます。認定されたPCR原案は、カーボンフットプリント制度試行事業事務局より申請代表者に文書で通知するとともに、「認定PCR」としてホームページで公表されます。

フェーズ 3：カーボンフットプリントの検証

カーボンフットプリントの算定・表示を希望する事業者が、「認定PCR」に基づいて、対象製品のカーボンフットプリントを算定し、その算定結果をカーボンフットプリント制度試行事業事務局に提出していただきます。

そのカーボンフットプリントの算定結果は再度、「PCR委員会」での検証を受け、算定結果が適当と認められた場合にカーボンフットプリントマークの使用が許諾されます。これらの手続きを経て、カーボンフットプリントマークが表示された製品が市場に流通されることになります。カーボンフットプリントマーク許諾製品は、順次、ホームページで公開されることとしております。

カーボンフットプリントに関する ISO 規格への対応

カーボンフットプリントは国際的にも注目されており、各国でも様々な取組が始まっています。

カーボンフットプリントを定量化するための算定方法等については、我が国だけにしか通用しない算定ルールをつくっても効果的ではありません。

算定基準や算定方法等には、国際的なルールが必要であるため、ISO（国際標準化機構）において、カーボンフットプリントに関する国際規格の審議が始まっています。

ISOにおけるカーボンフットプリントの議論に対応するため、平成20年（2008年）7月に「カーボンフットプリント制度国際標準化対応国内委員会」が発足しました。我が国が進めている取組やその経験等を踏まえた考え方をもとに国際標準化の議論に積極的に参画しているところです。

我が国で培った制度が国際的なルールに反映されていくことで、我が国から議論をリードし、中長期的な国際展開の基盤を固めることができます。

なお、国際規格は、3年間の作業期間を経て、平成23年（2011年）11月頃を目途に発行される予定です。

カーボンフットプリント制度試行事業を促進させるための様々な支援ツール

1 PCR原案策定支援事業

この支援事業は、「カーボンフットプリント制度試行事業」の一環として、PCR原案策定及びPCR認定を希望する事業者・団体に対し、PCR原案の策定、PCR認定までに対するコンサルティングの支援を行うものです。（本事業の実施期間は、平成22年3月31日まで）

支援の具体的内容

- ① 支援対象となるPCR原案の策定WG（ワーキンググループ）単位に、2名程度のコンサルタントを派遣
- ② コンサルタントによる支援は、PCR原案策定からPCR委員会でのPCR認定までを範囲とし、原案の素案策定やデータ収集方法の指導などを実施

なお、PCRが認定された後、PCRに基づいて実施するカーボンフットプリントの算定・表示に係る支援は含まれません。また、派遣されるコンサルタントへの費用（人件費、交通費など）は国が負担しますが、その他PCR原案策定に係る活動費用（会議費、交通費など）などは本事業に採択された事業者・団体が負担いただくこととなりますので、ご注意ください。

2 カーボンフットプリント制度試行事業用CO₂換算量共通原単位データベース（暫定版）

CO₂換算量共通原単位とは、単位質量当たり、単位エネルギー当たりで計算された温室効果ガス※排出量を指します。単位は[kg-CO₂e]となっており、温室効果ガスであるCO₂、CH₄（メタン）、N₂O（亜酸化窒素）等の排出による温暖化への影響をCO₂に換算して示しています。

このデータベースは、カーボンフットプリント制度試行事業を行っていく上で、カーボンフットプリントの算定を行う際に活用する原単位の暫定的なデータベースとして、様々な既存文献、調査資料などからデータを収集し、整理して構築されたものです。今年度中には、試行事業の全期間を通じて利用できるデータベースの構築を予定しております。

- * 本共通原単位データベースは、可能な限り適切な数値とするため、独立行政法人産業技術総合研究所の監修の下、検証基準に基づき作成したものです。また、第三者の有識者からなるCO₂排出量原単位検証委員会（委員長：石谷久東大名誉教授）にて検証を受けております。
- * 本共通原単位データベース（暫定版）と現在構築中の共通原単位データベースとの間で、数値が変わることも予想されますので、あらかじめご了承ください。
- * 本データはある一定条件下での算定結果を示したものであるため、本数値のみによる素材間比較などはできません。
- ※ 温室効果ガス（GHG：Greenhouse Gas）とは、二酸化炭素（CO₂）、メタン（CH₄）、亜酸化窒素（N₂O）（一酸化二窒素）、ハイドロフルオロカーボン類（HFCs）、パーフルオロカーボン類（PFCs）、六フッ化硫黄（SF₆）の6種類を指します。

3 カーボンフットプリント計算キット

認定されたPCRに基づき、カーボンフットプリントの算定を簡易に行うソフトで、現在開発中です。完成は平成21年11月頃を予定しておりホームページで公開する予定です。



カーボンフットプリントに関する情報はこちらへ!!

123g CO₂e Carbon Footprint of Products
製品のCO₂の「見える化」カーボンフットプリント

HOME CFPとは CFP制度について CFP制度への参加 CFP関連情報 CFP関連リンク

<http://www.cfp-japan.jp/>

全国各地で開催する
「制度説明会」
情報もあります!

問合せ先

カーボンフットプリント 制度試行事業事務局

〒101-0044 東京都千代田区鍛冶町 2-2-1
社団法人産業環境管理協会内
TEL 03-5209-7708
FAX 03-5209-7716
E-mail cfp@jemai.or.jp
<http://www.cfp-japan.jp/>